

家族の思い出 自然体で写す 写真館に部屋風スタジオ…若い世代に人気

2013/1/26付 | 日本経済新聞 夕刊

一軒家で貸し切りの撮影をしたり、マタニティー(妊娠)期の女性が記念撮影できたりと、趣向をこらした写真館が人気だ。東日本大震災以降、家族のきずなを記録に残そうという意識が高まっていることが背景。1990年代に登場した写真シールになじんだ20～30代の利用が多い。

1月の土曜日。2012年6月開業の写真館「ハピリフトスタジオ」(東京・表参道)では、赤ちゃん連れの親子が小部屋でポーズをとっていた。アンティーク調の部屋など4つの撮影ルームがあり、好みの部屋を選び約1時間で写す。

動画と合わせて撮るコースが4万9800円。30代女性などの利用が多く「ふだんは撮影する側の夫を含め、家族で楽しんでいる」(ハピリフト)。近く東京・自由が丘に2号店を出す。

1月中旬に東京都世田谷区で改装開業した写真館「プレシユスタジオ自由が丘店」は住宅街の一軒家で撮影する。2時間の貸し切り制で、休日の料金は3万580円(七五三などを除く)。「遊園地に行く代わりに来店する家族もいる」。都内の2店合計で毎月200～300組が利用する。

写真館は後継者不足やデジタルカメラ普及の影響で減少傾向にある。だが若い世代の間で家族写真に関心が強まり、一眼カメラも売れている。「いっしょの時間を自然に写したい人が多い」(プレシユスタジオ)

マタニティー期のサービスも増えている。「ラヴィ・ファクトリー」(大阪市などに約10店展開)は、ハワイなどの安産祈願の習慣を取り入れ、おなかに絵を描いて撮影するコースを大阪店で始めた。



4つの撮影ルームから好みの部屋が選べる(東京都渋谷区のハピリフトスタジオ)